

アントニー・スティーヴン・ギブズ先生のご退職によせる想い

福井七子

私が初めてギブズ先生にお目にかかったのは、関西大学文学部の頃でした。先生は英文学科に属しておられました。文学部時代はあまりお話をする機会もありませんでしたが、教授会の折、物静かな口ぶりでお話される先生を、いつも私は羨望のまなざしで見っていました。

直接お話す機会をもったのは、外国語学部にお移りになってからでした。私はその時、英語で論文を書かねばならないという、まったく荒唐無稽な仕事を抱えていました。まがりなりではありましたが、一応英語で原稿は書いておりました。手を入れてくだされば有難いという思いで先生にお願いしました。先生は大学前の喫茶店にほぼ時間通りお出でになりました。お聞きすれば京都から新幹線をお使いになったということで、大いに恐縮したものです。しかし、この恐縮は始まりに過ぎませんでした。一文一文、誠に丁寧に修正してくださり、最初は遠慮がちに聞いておりましたが、だんだん厚かましくなり、「それとこれとのニュアンスの違いは何ですか？」など先生にとってはあまりに稚拙すぎる難儀な質問を何百回もしてしまいました。ギブズ先生は一つひとつ本当に丁寧に教えてくださり、無事論文は仕上がり、それは後にジョンズ・ホプキンス大学出版から出版されました。残念ながら編集の段階で若干の修正がなされましたが、骨子については私も譲るわけにはいかず、何回も、何度も編集の人とやりとりをし、出版までこぎつけることができました。

先生の語彙力は驚嘆に値するもので、それは先生の日本語も同様です。先生の話し振りは、どれだけ緊迫した場面でも変わることなくたおやかで、穏やかです。先生の性格を投影するかのようで、私の耳には実にやさしく響いたものです。誰にも対しても変わることのないソフトな話しぶりが、もう聞けなくなるのは本当に淋しい限りです。

先生は日本の伝統文化にも造詣が深くていらっしゃるようですが、私にとっての興味は先生の春画に対する見識です。昨今、巷をにぎわしている春画の展示を巡る話はご存知のことと思います。先生は何十年も以前からこうしたものにも注目されているように拝察しています。教育分野で超有名だった或る先生が春画のコレクターであったことを京都大学人文科学研究所にいた折に聞き、驚愕したのを覚えています。ギブズ先生はこうした春画に対して一家言お持ちのようで、今後はこうした研究もぜひ深めていっていただきたいと切望しております。

幸いしばらくの間、授業を担当されるとのことです。道でお見掛けすることがあれば、先生、お声をかけることをお許しください。背の高くない私に話しかけるのは、少々苦痛をとまなう

かもしれませんが、これからもよろしく願います。

ギブズ先生、お身体のほうくれぐれも大切になさってください。やりかけのお仕事はまだまだたくさんおありでしょう。先生自身が長年にわたって蓄積されてきた日本についての思いは、これからも発信し続けてください。研究分野が先鋭化されている今日、先生のように文学・文化について幅広い見識・知識をお持ちの研究者が少なくなっているのは、とても残念なことです。

失礼なことを書き連ねたかもしれませんが、どうぞお許してください。ギブズ先生、お元気で。